

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0272500851
法人名	社会福祉法人 和森会
事業所名	グループホーム和の家なごみ
所在地	青森県上北郡東北町上北北2丁目33-315 (電話)0176-58-1113
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年12月4日

【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	12人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	理美容代 実費 ほか
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 86歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川原湖クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設準備段階から福祉先進県のモデル事業を参考に、地域密着型サービスの役割を重視した理念を掲げている。また、近隣地域を定期的に巡回し「認知症予防教室」を開催したり、介護保険運営協議会委員の受託や町の福祉関係者懇談会への参加など、法人と行政の積極的な協力体制を整えている。

毎月、利用者毎に手作りの広報誌を作成し、近況報告を行っているほか、第三者委員制度を取り入れ、家族等の意見や苦情を日々のケアに活かす体制を整えている。

法人内にサービス向上・リスクマネジメント・情報開示委員会を持ち、全職員が共通の認識を持って、日々のケア場面に活かそうと取り組んでいる。また、常勤看護師の配置や、法人内職員の兼務体制を整えるほか、夜間は夜勤者と宿直者の2人体制を取るなど、柔軟な勤務体制となっている。

町内の協力医院の定期的な往診のほか、常勤の看護師と連携し、緊急時の対応や相談に応じている。

掛け流しの温泉入浴ができ、個々の習慣や意向を尊重し、希望に沿った入浴を支援している。入浴を拒否する場合、いつでも入浴可能なため、急かさず、じっくりと誘導しており、毎日の足浴も支援している。

【特に改善が求められる点】

特になし。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に、非常時の食料の備蓄について、運営推進会議の場で公表すると共に、数日分の簡易食料品を備えるなど、改善に向けた取組を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価に取り組み、ミーティング等の場で話し合うことで、項目を意識しながら、個々で日々のケア場を振り返り、改善点を発見する機会とし、理念に沿ったケアサービスの実現に向けて前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町役場担当課や地域包括支援センター職員、民生委員、町議会議員(地域住民代表)、家族代表が委員となっており、それぞれの立場からの情報が提供されている。また、自己評価や外部評価結果、改善策を報告し、意見交換を行うことで、ケアサービスの質の向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>重要事項説明書に内外の苦情受付窓口や第三者委員を明記するほか、面会や行事の際にコミュニケーションを図り、話し易い雰囲気作りに努めている。また、利用者毎に、日々のスナップ写真を掲載した広報を毎月家族に送付している。家族等からの意見や苦情については、その都度迅速な対応に努め、ケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し、回覧板を回す付き合いがあるほか、地域のいきいき祭り(文化祭)やホームの夏祭りの案内を通じて、近隣住民との交流を図っている。利用者のプライバシーに配慮しながら、中学生の職業体験や高校生等のボランティアの受け入れも行っているほか、併設の在宅介護支援センター主催の「認知症予防教室」に関わったり、職員も積極的にキャラバンメイトとして活動するなど、認知症の普及活動に積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し、回覧板を回す付き合いがあるほか、地域のいきいき祭り(文化祭)やホームの夏祭りの案内を通じて、近隣住民との交流を図っている。利用者のプライバシーに配慮しながら、中学生の職業体験や高校生等のボランティアの受け入れも行っているほか、併設の在宅介護支援センター主催の「認知症予防教室」に関わったり、職員も積極的にキャラバンメイトとして活動するなど、認知症の普及活動に積極的に取り組んでいる。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>開設当初から地域に密着した役割を意識し、理念の中に盛り込み、町内会や地域の行事に出掛けたり、中学生の職場体験や高校生ボランティアを受け入れるほか、法人の在宅介護支援センター主催の「認知症予防教室」等に携わるなど、理念の実現に向けて具体的に取り組んでいる。</p> <p>管理者が各種外部研修に積極的に参加し、研修内容をパソコンで閲覧することで、職員との情報の共有を図っている。</p> <p>毎月、利用者毎に手作りの広報誌を作成し、近況報告を行っているほか、家族の意見や苦情に対して、第三者委員制度を取り入れ、日々のケアに活かす体制を整えている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族等の双方の意向を聞き、十分な話し合いを行った上で、納得の得られる支援体制の検討を行っている。また、ホームの雰囲気体験してもらい、馴染める環境を整えながら利用に繋げるよう取り組んでいる。</p> <p>利用者の経験を尊重し、暮らしの中で活躍できる様々な場面を設けている。また、利用者とのコミュニケーションを深めており、職員がサポートしながら、野菜を切ったり漬物を漬けるなど、職員と一緒に楽しみ、共に生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者の意見を可能な限り聞き、その人らしい暮らしの実現の為に家族や専門分野の助言も取り入れ、担当者会議の中で話し合いながら、利用者一人ひとりの個性を生かした介護計画書を作成している。</p> <p>利用者毎に受診歴を把握し、個別のかかりつけ医の受診の継続を支援している。家族付き添いでの受診となっており、受診結果はその都度確実に伝達している。また、毎月1回、協力医療機関の往診を行っており、利用者個々の相談や緊急時に対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は利用者を人生の大先輩として、言葉や習慣を尊重し、行動や発言を否定せず、一人ひとりの尊厳を守るケアを目指している。</p> <p>掛け流しの温泉と、暮らし慣れた和風造りのホームで、個々にできる事を日課とし、調理や買い物、家庭菜園、絵画、書道など、楽しみごとを促している。</p> <p>身体拘束のないケアと鍵を掛けない日常を目指しているほか、消防署や地域日赤奉仕団婦人部の協力のもと、定期的な避難訓練も実施している。</p> <p>自宅で愛用している調度品等を持ち込んでおり、一人ひとりに合った居心地良い居室作りを行っている。</p>